高市政権の知財戦略：米中特許の「空白域」から狙う日本の逆転劇

米中が特許件数で圧倒する中、日本が「特許の空白地帯」を特定し、特定の産業分野で不可欠性を確保するための国家戦略を解説する。

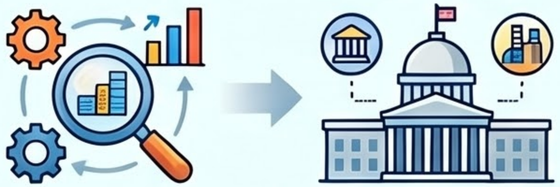
戦略の本質：特許の「量」から「不可欠性」の確保へ

米中特許の「空白域」を戦略的起点にする

支配的な権利網がない領域の特定

日本の資源を集中投入

IPランドスケープの国家政策への拡張



知財情報と市場データを統合し、官民投資の優先順位を決定する。

国家的な知財ポートフォリオ戦略への移行

権利管理から、経済安保や標準化を一体化した成長投資の羅針盤へ。

日本の「勝ち筋」と実装に向けた課題

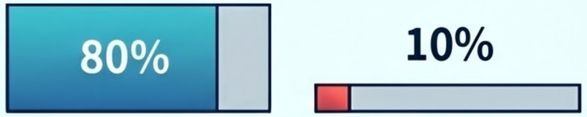
チョークポイントの支配

強みを持つ部素材

装置

現場データ

代替不可能な地位を築く



手法への理解
（必要性を感じる企業 8割）

実施率
（十分な実施は1割に留まる）

17の戦略分野における多角的な権利化

特許だけでなく、標準化、営業秘密、著作権を組み合わせて活用する。

日本が不可欠性を発揮すべき主要分野と差別化の方向性

AI・半導体

日本の強み・狙い目（空白域）：
フィジカルAI、半導体材料・装置

知財戦略の焦点：
装置・材料・ロボットを一体で権利化

コンテンツ

日本の強み・狙い目（空白域）：
ゲーム・アニメ等の既存IPの多角展開

知財戦略の焦点：
著作権、商標、ライセンス管理の統合

脱炭素（GX）

日本の強み・狙い目（空白域）：
ペロブスカイト太陽電池、水素機器

知財戦略の焦点：
製品特許と国際標準、公共調達の接続